

26/8/22

PR. 65~78

- ・調和する宇宙
- ・天地創造と錬金術

中国錬金術

「国産くわがける脂の如くして、くらげなすたによる時に、
 芋牙の如く萌え勝る物に因りて成りませる神」



くらげ(水母) 錬金術の水銀
 芋牙(齒牙) : これも錬金術の語 (硫黄に対応?)

上記の語は天地創造と錬金術を結びつけている
 が、しばらく錬金術がこの主題を取り扱うことはなかった



ヨーロッパ錬金術 ⇒ キリスト教
操作や理論の根拠を聖書に求めるようになった

聖書の天地創造の記述 →

① 「光あれ」	↓	プリマ・マテリア
② 大空と水が分かれる		から四大元素が
③ 水を海とする		分離する
④ 太陽、月、星辰		アトミック
⑤ 魚、鳥、獣		
⑥ 人間		

⇒ 天地創造をフラスコ内で再現する

ロバート・フラッドはこれに基づいて天地創造の図版を作った
 またこれは詩の主題としてとり扱われた

・音楽と錬金術

音楽 → ヨーロッパ神秘思想との関連

・ピタゴラス ———— バンマーの音を聴いて調和音の数学的関係を見出した
 (コスモスという言葉を作った)

“数学は霊的なものであり、知知の世界と神秘の世界の両方に
 またがる性質をもっている”



それを具体的に表現したものが音楽

ピタゴラスの思想として……

- └ 宇宙の音楽
- └ 人間の音楽
- └ 楽器の音楽

いずれも神祕的調和の表現、そこに音楽を(調和を)用いて介入する
7音の比率と天体を構成する比率と解釈し、
それを繋ぐのは生命を震わせるものと震わせる行為

マイアー「逃げるアタランテ」 ← エピグラム
フーガ音楽

音楽を通して錬金術の奥義が理解できるような図版

○錬金術の実験

・フラッドの小麦の実験

フラッドはヘルメス派に属しているがあくまで哲学に終始したわけではなく、実験的な経路を基にした宇宙論をもっていた

例えば……小麦の実験 (1623年「解剖学円形劇場」)

「小麦」を植物という概念の中心としらえた

小麦に対しての第4元素抽出実験

- ┌ 腐敗 → 粘性な液体
- ┌ 加熱 → プリマ・マテリア
- ┌ 蒸留 → 白い液体
- ┌ 太陽光 → 赤い物質

一応は三態に
対応している

小麦がプリマ・マテリアを抽出できる ⇒ キリスト教観の聖別したパン